

が、これが第二日目の討論に発展的に位置づかなかったのではないかとということですが、

③若手教員や婦人教員から多く参加してもらったため意見を聞く必要があるのではないかとということですが、

④通知表・新学力観については研究所が緊急に取り組まなくてはならない課題だということが明らかになったことです。

⑤企画運営上の問題で分科会を研究所が請負ったことはよくなかったのではないかとということですが、

⑥今集会は、財政的には赤字を出さずに済みまし。主たる原因は、第二日目の会場を中央公民館を使ったことにあります。

やごご

今集会を新潟日報社、BSN新潟放送、NHK新潟放送局が後援してくれたことに見られるように、県民の期待に応えるものであったこと、市民からの問い合わせが次々と寄せられたことなど有意義なものであったと自負しています。

秘密の空間

近所に住む小学生の男の子たち、四月から黄色い帽子の一年生を一人加えて四人になった。いちばん年長の六年生の子はさすがに分別らしい振る舞いをみせるが、三年生と四年生の二人はいかにも腕白そうである。私の家から道路を隔てた真向かいに小さいけれども乗敵な玩具屋ができて、駐車場を兼ねた店の前のコンクリートのたたきが、いつからか彼らの朝の集場所になった。とはいっても、多分お互いにさそい合ってくるのか四人はいつもいっしょに現れる。

朝の七時半、玩具屋の店のシャッターはまだ開かない。子どもたちはランドセルを下ろしてシャッターに寄り架け、コンクリートに尻をついたりして、ひとしきりそこで遊びに興じる。登校時刻から逆算しての時間待ちなのである。

ある朝見ていると、四年生の子が、

なにかわざとらしい忍び足でシャッターの郵便受けに近づいていく。郵便受けに差された新聞を横にずらして、そこから中を覗きこんだ。それから大げさにびっくりしたような仕種をしてみせ、三年生を手招きする。三年生もそろりそろりと近づいて中を覗く。「ぼくにも見せて」というように一年生が駆け寄る。最近はそうした行為を制するかのように見えた六年生も、遂には同様に覗きこんだ。

薄暗い店の空間は輪郭のない夢のように広がり、そこに、彼らはメルヘンの世界を垣間見たに違いない——リカちゃん人形がほほ笑んでいる。ガンダムと呼ぶプラスチックの騎士が叫んでいる。カッコいい「ミニ四駆」。新幹線「スーパーひかり」が疾走するオルゴールの爽やかなメロディや消防自動車サイレンの音まで、彼らには聞こえてくるのかも知れない……小さな「秘密の空間」をそれぞれの胸に秘めて、子どもたちはきょうも元気に登校して行った。

(か)